

(前回会議録から意見の抜粋)

■ 諮問事項「京丹後市まちづくり基本条例について、同条例第32条に基づく条例の検討及び見直しについて」

- この条例を作ってみて、何が進んで何がまだ進んでいないのかということを考えていくことが大切で、市民と社会からの吸い上げは、随分整備が進んできて、その吸い上げたものを、もう少しさらに先の協働まで進めていく、そこの部分のステップがまだやるべき事があると思う。例えば中間支援団体みたいなものが、人口5万と少しの町なので、もっと出てきてもいいと思うが、その辺りがまだ強化すべきポイントのような気がする。
- 自治区が地域の機能を維持するために、隣の地域同士で助け合っていくといった小規模多機能自治を検討、研究しようということで動き始めた。そしてそれを新たに、活かすということで新コミュニティの事業へと展開しているという経過がある。そういった事により地域も変わってきているので、その内容も会議で出してほしいと思う。また、宮津の海洋高校が作っているさば缶に地域のラベルを作って包んで、地域の紹介をしている。それも一つの活かす方法だと思う。そうやって協力し合っ、地域をしっかりと考えて動かしていくことも大切である。
- コンパクトシティを目指していくには、京丹後市は地域的にも多様性があり、かつ広大なので、色々と指摘される意見がかなり中心的なものだと思うが、そういった意味では、このネットワークというのがいい方向性だと思っているが、コンパクト+ネットワークが地域拠点を作りながらだと思う。ネットワークとは、基本的には公共交通や鉄道バスであるが、京都丹後鉄道がネットワークの中心になるのかというと、やはり本数も少ないですし、拠点と拠点を何で繋げていくのか。ネットワークのあり方自体を考えていかないといけないと思う。その後は、全国的なコンパクト+ネットワークでの公共交通の作り方ではなくて、京丹後市なりのネットワークの作り方、自動車などの取組みや、丹後町がウーバーのシステムを使って地域で移動手段を確保しているということをしているが、そういった所と上手く連携しながら、ネットワーク化を図っていく必要がある。
- 未来のまちづくりワークショップの中での意見は全くごもつともだと思うが、区長としては、未来のまちづくりという観点から、とりわけ丹後町は過疎化が進んでおり、ウーバーのアプリを使って、自家用のタクシーを運用している話も、過疎がゆえに国から認められたという背景があるので、未来のまちづくりという面では違和感があり、厳しい現実がある。例えば私の地域は約2000人いて、共同墓地も抱えているが、墓終いといった事がかなりおきている。それと、共同墓を作ってほしいというような10年前なら考えられないような現象が、ただ単に、空き家の問題だけではなくて、正に縮小していくというか、消滅のカテゴリーに入っていると感じている、本当に危機感を持っている。また宇川地域は、今は民間事業者(いととめ)が週1回来ていて、これが難しくなりつつある。ではどうやってその地域で安心して住むことが出来るのか、安心、安全に、医療、買物とか、かなり具体的な要素が求

められてきている。そういった点で、このまちづくり計画は当然必要なものではあるが、若干距離があって、もう少し中長期で考えれば、未来のまちづくりは当然取り組むべきですが、目の前で起きている現象に、どうやって対応するのかということは、地域だけではなくて、行政と一緒に考えていく。そういった段階に来ていて、目の前で起きていることを一つ一つ解決して対応していかないといけないが、未来のまちづくりのことを考えて会議に参加している。

- 過疎地指定があるからこそ、ウーバーのシステムを使うべきだというのが、国の規制が根本にあることなので、そうなっていると思うし、本当に厳しい現実があると思う。
- この2月からいととめが週1回、移動販売として始まっていて、特に車を所有していない高齢の方などは利用している。あとは、デマンドバスも市から委託を受けているので、それを利用している人もいるし、ささえ合いのウーバーのシステムで来る方もいる。両面でやっているが、市のデマンドバスは前日予約の仕組みになっているし、ウーバーはリアルタイムで利用出来るが、ただ乗る場所が丹後町からしか乗れないなどの不便さがある。峰山や弥栄の病院まで来て、帰りは通常の民間のタクシーを使わないといけない。また、北部医療センターまで行きたくても、この場合は使えない。ある面では民間の事業者のある種規制によって、住み難くなっている部分もある。でも過疎がゆえに、国交省も認めているという部分もある。昨年1年間で全国から約100件のウーバーの視察があったが、最近に行くケースが求められて行くのだが、地域公共交通会議で断念されている。来るのはいいが、これはうちの町には無理だなと。宇川地域で何とかNPOでその辺の仕組みが出来ないのかという議論をしたが、正にリアルタイムの問題であり、ここで未来のまちづくりというテーブルにおれるような猶予はない。
- まちづくりの移行期間が効率的ではないのではないか、正に待ったなしの状況でどうするのか、もちろんここでその解決策が出るということはないかもしれないが、色々なことの話をしている中でも方向性が見えることがあるかもしれない。
- 社会福祉協議会でも、もちろん移動や買物の問題は、職員話し合いの場に行き、地域の人の話を聞いて、どういったことが社協で取り組めるかを考えているが、実現に向かっていくことが実際には中々ないのですが、一つ今進めているのは、社協の車を貸し出して、地域で運転手が運転して、地域の高齢者の方が乗って、診療所やサロン、老人会に行くのも地域の人が運転して行って、ガソリン代は乗った人が負担していくというやり方をしている。これは地区のささえ合いを、社協として支えるということをしているのと、それから福祉有償は制度的なものでしているし、それから、希望者があるバス停がない地域・地区に、買物支援を月1回、曜日を決めて、社協の車で社協の職員が地域の商業施設まで車を出している。社協でしている買物や移動支援は、そういったものがある。あとは地区で高齢者や子ども達のサロンがあり、どこかに遊びに行くにしても、バスを借りないといけない。そこで社協のバスを1地区に対して1回だけ、しかも福祉委員様がやっているサロンにつきましても、社協の事業として、職員が運転をして、費用は全部社協持ちでいくこともしている。後は、社協ではないが、はごろも苑が持っている車を活用して、デイサービスの送迎の車の空き時間だと思うが、その車を活かして、買物支援を今月第

- 1 回目をしたと聞いている。民間が地域貢献として、何ができるのかということを考える力を持っているといいますか、その辺は福祉に取り組んでいる法人があるので、この思いが届くと、交通関係の仕事をされていない方でも、地域貢献として、何か課題解決するために動いていくということが何かあるのではないかと思いますし、そういった事を伝えていくことが私たち社会福祉協議会の一つの大きな役割であると思う。
- 車などもそうですが、今空いているものをどう知らせていくのかということを考えるべき点だと思う。ネットワークでやっていくということでも、このシェアの発想は重要だと思う。
 - 空いている車をどう活用するのか、また空いているドライバーをどう活用するのかという視点で、考えていくというのが今後大事である。どう何をシェアするのかを考えないといけないし、シェアをするためのプラットホーム、ウーバーだとアプリだし、アプリではなくて、それがコミュニティでもいいし、あるいは何かの市役所のどこかの場所でもいいし、みんなで何か困っていることだとか、やりたいこと、楽しみたいことをシェアできる、共有できるような場とか空間とかが必要だと思う。
 - まちづくりの方向性として進めていて、シェアの考え方を京丹後市としてもしっかりと進めていくということが見えてくると思う。
 - 自治区やNPOで、無償だったら地域公共交通会議とか、民間事業者にクレームをつけられることもないので、区民はある種会員なので、区費に乗せてみようと考えている。それなら何も問題ない。その仕組みが可能かどうかという議論をしている。本当は空いた車が、行政も私どものデマンドバスでもあるが、これがなかなか行政の中で、医療部が持っている診療所の空いた送迎バスを他で使わせてといたら、医療部がいいと言わないし、行政の中で壁がある。デマンドはかなり時間が空いているので、その車両を使わせてくれたらいいのに、これも一つ考えてほしい。
 - 朝来市の人口が 1200 くらいの集落の区長が言っていたが、そこは若者が入ってきて、若干増えているのですが、基本的に各自治区とか、市町村の子育て支援の手当が手厚くて、それによって入ってくる人は全然期待していない。ただ単ににんじんをぶら下げられて、それに食いつくだけで、ただ単に子どもの成長が終わったら出ていく人もいる。そうではなくて、地域に密着していく、伝統文化だとか、そういった事に共感共明をしてくれる人に入ってきてほしい。そういった事ははっきりと申ししていた。だから行政もそういった視点で、ただ単に、他の町より、子育て支援が低いサービスは困りますが、それを手厚くすればいいということではないという話があり共感できると思った。
 - 町もある意味、戦略的なもので、どういった人に来てほしいかということがあると思う。全部業としてやっていくと色々な規制で難しくなってくるが、NPOを活用しながら、市民同士の自発的な助け合いの中でシェアが進んでいくように後押ししていくことで、住み分ける道が色々見えてくると思う。それはやはり京丹後市としても方向性として考えるところだと思う。

- 中学生アンケートをしっかりと活かしていくということをしていかなければいけない。アンケートを地域や中学生に結果を返していくことによって、初めて地域がこういった事で頑張っているのだなというのを感じ取ってもらって、また大きくなったら帰って来ようかということに繋がればいいなと思う。
- アンケートを次の年代に対しても返していくということでもいいような気がする。ただ単にアンケートに協力してもらっただけじゃなくて、結果を見せて、市としてもこのように動こうとしているのだよということを学校教育現場でも説明していくということも将来を見据えると大切だと思う。
- 地域づくりを実践している地域に視察に行ったときに、やはり危機感から出発し、地域が持続可能な地域づくりを進めていて、上手く機能していた。まさに祭り一つとっても、若者がいない、人口減少で、伝統行事の継続が困難になって、従前のようにすることができなくて追い込まれてきています。そのように、すごく危機感を持っておりまして、私共は7つの集合体と一緒にしておりますが28団体あります。これを一本化し、区費の平準化をやろうとしている。バッシングはあるが、どうしても、次の世代にバトンタッチするには絶対にやらないといけなくて、頂上が見えてきたので、想定していたとおりにいくかなと期待している。私の地域は先進地でやっているが、宇川とか他の地域の区長、その地域の皆様にとって、本当はそういった地域がやらないといけないし絶対やるべきだが、ただそのリーダーが、自分の時にはしたくないとか、面倒だから先送りするとか、逆に言うと地域の危機感がないと思う。やはり地元が好きじゃないとできない。好きだということは地域を愛しているということで、でもやはり好きだからできる。だからやれないということはそこまで危機感を持っていないし、やはり地域を愛していない。だけど現状は放置出来る様な、宇川地域だけではなくて、丹後町で取り組まざるをえない。スーパーから遠い地域の問題は、京丹後市はほとんどある。そういった点から、宇川に限らず京丹後市一円がそういった状況であるので、自治区で出来ることはたくさんあるので、私はやはり最後は人づくりで、地域に関わってくれる人をどうやって育成していくのか、もう少し行政が規制を緩めてくれたらと思う。
 運転の問題も、せめて病院まで来た時は、帰りも認めてほしい。ウーバーのシステムで、でも絶対良いとは言わない。行政が良いと言わないと民間事業者が良いと言わない。
- 何のために区費の平準化をするのか、平準化をすることが目的ではなくて、持続可能な自立した区にしたいと思っている。今京丹後市の区から出る要望は2700ほどあるが、行政ばかり出来ない。だからいくら市道の側溝であれ、ごく身近なものでも何年待ちますか。だけどやはり生活している住民の皆様は困るわけで、それを区で直したいと思っていて、そこで財源を作るため、区費の平準化をしたいと思っている。また京丹後市の区の役員は人件費が高すぎる。ある視察した人に聞いたら、年間3万円です。ただしやはり事務局がしっかりとした人がおられて、その方が全部仕切っている。そういった形でも地域貢献ですし、区長はボランティアではない。ボランティアは他人事ですから、他人事をするのがボランティア、区長は自分達が住んでいる区であったり町であったりするので、勘違いしている人がいますが、区費をもっと有効に効率的に使うためには、人件費にも切り込まないといけないなと率直に思う。やはり自立した区を作っていくというのが最終目的で、行政には頼っ

ておれません。要望はしないといけないが、市道の改修を区でやると損じゃないかと言っているが、それを損と捉えるのか、そうではなくて、ずっと5年10年我慢して、要望出している、そっちのほうがおかしいのではないか。区の色々な動きがありますので、区が動くことによって、周りの区にも影響してきているので、やはりそういった広がり、今後広がっていけばいいなと思う。

- 今回メンバーも変わり、そうするとまた意見が違ってきて、意見を出しても、それが現実に行くのかどうかは行政に任せるしかない。

全国的に人口減少になっていて奮い合いをしている中、結局魅力がないと来てもらえない。一番手っ取り早いのが、子育て世代の方に来てもらったら、お子さんが健やかに育って、そして人口も増えて、そこで職場ということも問題になるが、何か魅力を絞って、特化してアピールしていく、マスコミなどに取り上げてもらえるようなアピール化、すごくおいしい食べ物もあるし、いいのではないかと町民自らが奮い立って、前向きな気持ちを持っていかないと、暗くなるばかりだと思うので、見える化というか、何かそういったプロジェクトと言うか、今クラウドファンディングもありますし、市役所の人達が一丸となって、私たちの意見を聞いて、プロジェクトチームを作って、そこでもっとスピーディーに何かを実現していつてもらわないと、こういった意見を言うだけでは、前に進まないと思うので、今回もスピーディーに出来ないのかと思う。

- 課題に答えながらスピーディーにというのが大変だが、やらないといけないという状況だと思う。

- 室内で遊べるような施設の話があったが、各保育所に支援センターはあるが、1家庭につき1箇所しか登録ができなかったり、行く日が年齢によって決まっていたり、行きたい時にいける場所がないということはよく聞いている。宮津など近くに出来たが、やっぱり少し遠いという声があり、その場で大きい子と小さい子を分けていないから、やはりちょっと行っても小さい子の場合、大きい子がいると、遊ぶのに躊躇してしまうとか、色々な声が聞かれていて、もしこういった施設が京丹後市に出来るのであれば、現場の声をしっかり聞いて建ててほしいと思う。建てたことで市は満足せず、フォローなどもしっかりしてほしいと思う。

- 子育て世代の声をどこまで本気で聞けるのかということは、町にとって、未来にとってすごく大きなことだと思う。

- 民間がやっている室内の巨大な遊び場が都会にあり、それを京丹後市が建てるというのはちょっと無理な話かもしれないが、大人でも楽しめるような施設があれば、もちろん有料ですが、数千円くらいで楽しめるところがあると、他の近隣の人も来るので、そういったものがあつたらいいなと思う。

- 青年会議所も、持続可能な地域づくりをキーワードに今年はやっていて、そこにビジネスの機会みたいところが入ってきていて、室内の遊び場なども、有料でやるのもやっぱり儲からないと、持続可能じゃないと思う。ボランティアでやるのにも限界があると思う。儲かるって分かったら、他のところから色々な企業が入ってくると思う。そういった儲かるようなサービスというか、お金はいるのかもしれないのですが、

そこはそういった地域なので、皆で協力してもいいかもしれませんが、一つの手段としては、企業を連れてきて、儲かるようなところで、サービスをしてもらうということも一つの手だと思う。

- 市民が参加する各分野でのリーダー育成ということを行っているが、しっかりと勉強してもそれだけで終わってしまう。地域に活かしていないのではないか。活かしていることもあるかもしれないが、地域での受け皿、構える体制があってこそ、リーダーが伸びていくものだと思うので、そういったところをしっかりとこれから作り上げていかないといけないのではないかなと思う。
- 全て市がやってくれると思っている人が多く、意識改革が必要。
- 丹後に来て 16 年くらい経つが、ご近所様の名前も出てこない方もいて、その辺りの繋がりが持っていない部分があり、繋がることをしていかれるのはすごく良いことだなと思うし、どこに声をかけたらいいいのかとか迷うこともあるので、横のつながりをしっかり持っていただけると嬉しい。
- これから市が、地域をどのように捉えて進めていくのかということ社協の職員と一緒に話をして理解しながら進んでいくことが出来ればと思っていて、実際に地域の中で起きていることを、地域の中で解決していこうということで、それは過去から社協もそういった取組みを進めている中で、地域がどのような地域なのか、どのように組織されているのか、ということがすごく影響すると思う。とても大きい動きなので、社協職員皆が理解しながら、今後どのように福祉委員は関わってくるか分かりませんが、まちづくりをどのようにするのかということ、一緒に勉強し取組んでいければと思う。
- 実際地域になくて、朝仕事に出て夜自宅に帰るだけで、子どもも成人しているので、子供会や婦人会、小学校も関係ありませんし、地域に関わることがない。女性の意見も地域に反映させようということになったと思うが、また地区に戻すのかという思いがあり、生活圏も広がったし、買物に行くのも、情報を得るのもどんどん外に広がっていった中で、ネットワークも自分の住所のある地域だけでなく、分野的に広いところでネットワークも出来ているし、それをまた地区の中で何か役割を持って動くのかという所が、まだ自分の中でイメージできない。それと行政が本当に横のつながりを持って、しっかりとここにマッチするのか、誰がするのか、一つまた役が増えるだけではないのか、よほどきっちりしないとそうなるなと思ったのと、あとは子どもの遊ぶ場所が欲しいとか、では図書館をどうするかとか、こういったネットワークでは出てこない話題だと思うので、そういった広域の課題についても、しっかりと考えるような事も同時に必要だと思う。
- 小学校も合併し、どんどん色々なことが出来なくなってきているので、少し小学校区単位で、草刈にしても地蔵盆にしても、何かやるにしても、少し広い単位でやっていく、そういった意味では小規模多機能ではなくて、大規模多機能になっているなど、今よりも広がっているなと思って、小規模多機能がすっと落ちてこなかったのは、そういったところかなと思う。確かにもう少し広い範囲でやらないと立ち行かなくなっているなと思う。

- こちらから課題を押し付けるのではなく、共通できることや協力できることはやろう、校区でやろうということを見つけて進めていくというのは、地域や校区でバラバラだと思う。基本的なものはあるにしても、取組み方も違うし、それでいいのかなと思う。
- 例えば福祉委員を選出するのはどこからかとか、公民館の活動と福祉委員の活動は非常に似ているところがあったり、社協が進めている地域の交流の行事の問題とかもやる人は同じ人なのにこっちは公民館事業、こっちは社協からの事業、こっちは健康推進課からという、目的が一つなのにあれもして、これもしてというのをよく聞く。新コミュニティの大きな動きがあるのなら、せっかくならできるだけ一つにして、行政や社協からの矢印が一方に向かうという方向ではなくて、課題を持っている人達が、どこに向かって矢印を向けていくのかという、矢印の方向が反対であり、そこに住んでいる人が、これは公民館の問題、これは健康推進課のほうに助けてほしい、これは福祉の問題とか、その人達が発信して回りが連携するというやり方でないと上手くいかないと思う。今は地域に向かってそれぞれが矢印を向けている。全く反対のやり方をしている気がして、いいチャンスだと思うので、是非とも、研修会などでもしてほしいと思う。
- 中心になる人がいて、課題発信をあちこちに届けていくことが大切。
- とにかく男性が中心の世帯数ベースだけで進んできた傾向があり、限界集落、準限界集落が増えてきている中で、従来の行政区ベースでやっていくのは限界があるということで、地区、公民館区域を念頭において、新たな横繋がりのコミュニティを作っていくということ自体が、市民が主体となって、自分達自身でまちづくりをしていくということに資するのだということを進めていると思う。非常に画期的なものになってくると思うし、では誰がやるのかという問題が今出ているというのものもある。
- 住民の側の要望を聞くだけが協働ではないと思っていて、やはり市民の意識が変わって、市民自らが動く、民間が地域貢献をする、そういう風にかにもっていかれるかという辺りで、中間支援組織、民間、NPO、市民団体が活動しやすくなるような中間支援の組織が少し足りていないと感じている。そういった意味では正に社協が中間支援の組織だと思っているし、移住の中間支援については、何か分野に特化したものではなくて、全体として、NPO活動など市民活動が活発になるような中間支援の組織は必要だと思う。京都府のNPOパートナーシップセンターと連携していくということもどこかに書いていたと思うので、今後は是非今まで以上に連携をして、パートナーシップセンターもその役割も担っていただけたらと思う。
- 区長は結構仕事もあって大変だと思うが、コミュニティとかそういった事が必要かなと思う反面、忙しいなと思うこともあって、どちらがいいか分かりませんが、感覚的にはないほうがありがたい。日曜日に半日出るくらいなら、お金を払いますので、仕事させてほしいと思う。
- 色々な負担はあるが、何か参加するチャンスというのをぜひたくさん作って、それが校区のコミュニティや小学校やこども園やクラブなど色々なコミュニティが

あって、たくさん参加できるチャンスの中で、自分の能力だとか、色々な人脈を活かしてもらって、地域をより良くしていくような機会を作っていくといいと思う。

- 計画を立て、その計画を実現するためには、何をするのかということをしつかりと議論していく必要があると思う。
- 市がやるべき事、地域がやるべき事、個々がやるべき事をしつかりと確認することが必要。